

# 中央大學學則

大學部  
大學豫科  
專門部

20134440

# 中央大學學則

## 第一章 總 則

第一條 大學ハ法學、經濟學、政治學、商學ニ關スル學術ノ理論及ヒ應用ヲ教授シ並其ノ蘊奧ヲ攻究セシムルヲ以テ目的トス

第二條 大學ニ法學、經濟學、商學ノ三學部及ヒ大學院ヲ設ケ豫科ヲ附置ス

第三條 學部ハ晝間部、夜間部ノ二部ニ別ツ

豫科ハ晝間部、夜間部ノ二部ニ別チ晝間部ヲ第一豫科トシ夜間部ヲ第二豫科トス

第四條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第五條 休業日ハ左ノ通トス但シ必要アリト認ムルトキハ臨時休業スルコトアルヘシ

四月一日ヨリ十五日ニ至ル

七月十六日ヨリ九月十日ニ至ル

十二月二十六日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

日曜日

大祭祝日

大學記念日(七月八日)

第六條 學部ニ所定ノ期間在學シ且其ノ配當科目全部ノ試験ニ合格シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

轉學ニ因リテ學部ニ中途ニ入學シタル者ニシテ其ノ屬スル學年以後ノ所定ノ期間在學シ且其ノ配當科目ノ全部ノ試験ニ合格シタル者ハ前項ニ定メタル所定ノ期間在學シ且其ノ配當科目全部ノ試験ニ合格シタルモノト看做ス

第十條ノ規定ニ依リテ修學シタル隨意科目ノ試験ニ合格シタル者ニハ請求ニ依リ其ノ科目ノ合格證明書ヲ交付ス

第七條 學部ヲ卒業シ卒業證書ヲ授與セラレタル者ハ其ノ學部ニ從ヒ法學士、經濟學士、商學士ト稱スルコトヲ得

### 第二章 學部

第八條 學部ノ修學期間ヲ三學年トス

#### 第一節 學科課程

第九條 各學部ノ學科課程、其ノ配當及ヒ授業時間數左ノ如シ

#### 第一 法學部

第一學年	第二學年	第三學年
憲法	行政法	行政法
民法第一部(總則)(物權)	民法第三部(親族)	商法第二部(手形法)(小切手)
民法第二部(債權)	商法第一部(商法總則)(商行為)(保險)	商法第三部(海商法)(保險法)
刑法	刑法	財政學
日本法制史	民事手續法(至五編)	民事手續法(六以下)(破産)(非訟事件)(手續費)
經濟學	刑事訴訟法	統制法規概論
外國法 <small>(英獨)</small>	國際公法	法律哲學
共榮圈狀勢概論	外國法 <small>(英獨)</small>	外國法 <small>(英獨)</small>
東亞法制概論	歐羅巴法制概論	民事演習
敎練	敎練	刑事演習
軍事學		英美法制概論
		敎練

此科課程ニ  
付テハ 研究中  
ニテ 現在ハ多  
ク 變更ニシ  
テ 實施ス

20134440

必修科目中外國法ハ入學ノ始ニ於テ英法、獨法ノ一ヲ選定シ届出ルコトヲ要ス、夜間部ニハ教練ヲ課セズ

隨意科目						
社會學	二	西洋法制史	二	國際私法	二	
倫理學(東洋)	二	倫理學(西洋)	二	國史	二	
外國語(支那語等)	二	經濟政策	二	社會政策	二	
		刑事政策	二	政治學	二	
		外國語(支那語等)	二	外國語(支那語等)	三	

中等學校公民科教員無試驗檢定希望者ハ社會學倫理學(東洋西洋)經濟政策社會政策ヲ必修スルコトヲ要ス

第二 經濟學部

第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
日本經濟史	經濟政策(農業)	經濟政策(工業)	經濟政策(交業)
經濟原論	經濟學史	經濟政策(工業)	
必修科目			
科目	科目	科目	科目
時間數	時間數	時間數	時間數
二	二	二	二
四	二	二	二
二	二	二	二

經濟地理

第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
地政學	經濟政策(商業)	財政學	財政學
金融論	證券論	西洋經濟事情	
統計學	證券論	經濟統制論	
簿記原理	演習(經濟商業)	政治學	
配給經濟論	外國語經濟書(英語)	演習(經濟商業)	
經營經濟學	會計學	外國語經濟書(英語)	
外國語經濟書(英語)	應用簿記(原價計算及工業簿記)	商法(海商・手形)	
共榮圈情勢概論	民法(債權)	統制法規概論	
憲法	商法(總則・會社)	國際經濟論	
民法(總則・物權)	商法(總則・會社)	國際經濟論	
教練	教練	教練	
軍事學			
必修科目			
科目	科目	科目	科目
時間數	時間數	時間數	時間數
二	二	二	二
四	二	二	二
二	二	二	二

必修科目中外國語經濟書ハ入學ノ始ニ於テ英語經濟書獨語經濟書ノ一ヲ選定シ届出ルコトヲ要ス、夜間部ニハ教練ヲ課セズ

20134440

東亞經濟事情	經濟史	經濟地理	英語購讀	選擇科目	民法 <small>(總則·物權)</small>	憲法	商業英語	統計學	貨幣論	經濟原論	交通論	配給論	經營學	商業數學
二	二	二	二	二	四	二	二	二	二	二	二	二	二	二
外國爲替及稅關	豫算統制	應用簿記 <small>(銀行簿記ヲ含ム)</small>	英語購讀		商法 <small>(總則·商行為會社)</small>	民法 <small>(債權)</small>	商業英語	演習 <small>(經濟·會計·經營·商業)</small>	景氣論	金融論	商業政策	取引所論	商品學	原價計算
二	二	二	二	二	四	二	二	二	二	二	二	二	二	二
交通政策	經營分析及比較	會計監查	工場管理		商法 <small>(海商手形)</small>	商法	計算實務	經濟統制法	工業政策	工業概論	演習 <small>(經濟·會計·經營·商業)</small>	財政學	保險論	貿易實務
二	二	二	二	二										

簿記原理	必修科目	第一學年	第二學年	第三學年
二	會計學	二	二	二
	工業會計			二

第三商學部

哲學	倫理學(東洋)	倫理學(西洋)	經濟團體論
二	二	二	二
刑法	國際公法	保險學	
二	二	二	
外國語(支那語等)	民法 <small>(親族法)</small>	行政法	
二	三	二	
	外國語(支那語等)	社會政策	
	二	二	
	工業所有權法		
	二		
	外國語(支那語等)		
	二		

中等學校公民科教員無試驗檢定希望者ハ社會學民法(親族相續)、倫理學(東洋西洋)、行政法(總論各論)、社會政策ヲ必修スルコトヲ要ス  
 高等學校高等科法制及經濟科教員無試驗檢定希望者ハ行政法(總論·各論)民法(親族相續)及刑法ヲ必ス履修ス

20134440

5

殖民政策	二	西洋經濟事情	二	社會政策	二
				信託論	二
				國際經濟論	二
				經濟統制論	二
				日本產業史	二
隨意科目					
倫理學(東洋)	二	倫理學	二	經濟時事問題	二
刑法	二	行政法總論	二	行政法各論	二
親族法	二	相續法	二	工業所有權法	二
獨語經濟書	二	國際公法	二	支那語	二
佛蘭西語經濟書	二	獨語經濟書	二		
社會學	二	佛蘭西語經濟書	二		
支那語	二	支那語	二		

高等學校高等科法制及經濟科教員無試驗檢定希望者ハ行政法(總論各論)親族法相續法及刑法ヲ必ス履修スヘシ

第十條 學年ノ始ニ於テ關係學部長ノ許可ヲ受ケ其ノ學部又ハ他ノ學部ニ屬スル授業ヲ隨意科目トシテ修學スルコトヲ得

第二節 入學、休學、退學及ヒ除名

第十一條 入學ヲ許可スヘキ者左ノ如シ

- 一 豫科卒業者
- 二 高等科卒業者又ハ文部大臣ニ於テ之ト同等ノ學力アリト認メタル者
- 三 舊大學部卒業者及ヒ專門部卒業者但シ大正七年文部省令第三號第二條第二號ニ依リ指定セラレタル者ニ限ル
- 四 同等學校ノ豫科卒業者及ヒ專門學校卒業者但シ大正七年文部省令第三號第二條第三號ニ依リ指定セラレタル者ニ限ル

第十二條 同等學校ニ於テ第二學年以上ニ在學シ轉學スル者ハ相當ノ學年ニ編入スルコトヲ得但シ學科課程中他ノ大學ニ於テ修了セサル科目アルトキハ其ノ科目ニ限リ試験ヲ行フ

第十三條 入學ノ許可ヲ請フ者ハ入學申込書ニ履歷書ヲ添ヘ差出スヘシ但シ試験ヲ要スル場合ニハ同時ニ受驗料金十圓ヲ納ムヘシ

20134440

第十四條 入學期ハ學年ノ始トス但シ第十二條第二項又ハ第二十三條ノ規定ニ依リテ轉學又ハ再入學スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 入學ノ許可ヲ得タルトキハ直ニ保證人ト連署シテ在學證ヲ差出スヘシ

第十六條 保證人ハ成年者ニシテ東京都又ハ其ノ隣接市町村内ニ於テ獨立ノ生計ヲ立ツルモノナルコトヲ要ス

保證人ハ本人在學中ニ係ル一切ノ事項ニ付其ノ責ニ任スヘキモノトス

第十七條 保證人死亡シ又ハ前條ノ要件ヲ缺キタルトキハ遲滯ナク之ヲ改定シ更ニ在學證ヲ差出スヘシ保證人ノ變更アリタルトキ亦同シ

保證人住所又ハ氏名ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第十八條 疾病其ノ他止ムヲ得サル事故ニ因リ滿二箇月以上修學スルコト能ハサルトキハ其ノ事實ヲ證スル書面ヲ添附シ保證人連署ノ上其ノ許可ヲ受ケ當該學年間休學スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ休學シタル者休學ノ事由止ミタルトキハ保證人連署ノ上許可ヲ受ケ原級ニ入り修學スルコトヲ得

第十九條 給費、生貸費生ハ休學ノ月ヨリ其ノ資格ヲ失フ

第二十條 陸軍、海軍ノ現役ニ服スル者及ヒ召集中ノ者ハ其ノ期間滿十八條ニ準シテ休學シ滿期後直ニ原級ニ復スルコトヲ得

第二十一條 疾病其ノ他ノ事故ニ因リ退學セントスル者ハ保證人連署ノ上届出ツヘシ

第二十二條 左ニ掲クル者ハ學籍ヨリ除名ス

- 一 學業劣等又ハ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ成業ノ見込ナント認メタル者
- 二 出席常ナラサル者
- 三 何等ノ事由ヲ以テスルニ拘ラス引續キ一個年間缺席シ又ハ正當ノ理由ナク一個月以上缺席シタル者

第二十三條ノ規定ハ前項ニ依リテ除名セラレタル者ニ之ヲ準用ス

第二十三條 第七十五條、第七十六條ノ規定ニ依リ退學處分ヲ受ケタル者四個月以上ヲ經過シ改悛ノ情顯著ナルモノト認メタルトキハ特ニ再入學ヲ許スコトアルヘシ

### 第三節 試 驗

第二十四條 試験ハ學年ノ終又ハ授業ヲ終リタル際之ヲ行フ

必要アルトキハ追試験及ヒ再試験ヲ行フ、追試験又ハ再試験ヲ受ケタル者ハ一科目ニ付受験料金<sup>五円</sup>ヲ納ムヘシ、但シ總額金<sup>十圓</sup>ヲ超ユルコトナシ

20134440

第二十五條 試験ノ方法ハ筆記又ハ口述トス

第二十六條 試験ノ成績ハ各科目ニ付甲、乙、丙ヲ以テ表示シ甲、乙ヲ合格トシ丙ヲ不合格トス

第二十七條 授業ヲ受ケタル科目ニ非サレハ試験ヲ受クルコトヲ得ス

休學シタル者ハ其ノ學年ニ屬スル試験ヲ受クルコトヲ得ス但シ第二十條ニ定メタル休學者ハ此ノ限ニ在ラ

ス

第十八條第二項ニ該當スル者ハ其ノ休學取消ノ承認ヲ得テ試験ヲ受クルコトヲ得

第二十八條 或科目ニ付三個年以内ニ試験ニ合格セサル者ハ全部合格ニ至ルマテ在學スルコトヲ得但シ六個

年ヲ超ユルコトヲ得ス、試験ヲ受ケスシテ在學スル者亦同シ

在學六個年ニ滿ツル者其ノ最後ノ學年試験ノ追試験又ハ再試験ヲ受ケムトスルトキハ許可ヲ受ケ前項但書

ノ規定ニ拘ラス其ノ追試験又ハ再試験ノ施行ヲ終ル迄ノ期間在學スルコトヲ得

第十二條ノ規定ニ依リテ入學シタル者ニ付テハ其ノ入學シタル日ニ至ル迄ニ要スヘカリシ期間在學シタル

モノトシテ其ノ在學期間ヲ計算ス

第二十二條又ハ第二十三條ノ規定ニ依リテ再入學シタル者ニ付テハ其ノ除名中又ハ退學中ニ屬スル期間ヲ

其ノ在學期間ニ通算ス但シ學年ノ始ニ於テ第一學年ニ入學シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 隨意科目ノ試験ハ希望アル場合ニ限り之ヲ行フ

第三十條 試験ハ授業料ヲ完納シ且必要ナル受験料ヲ納付シタル者ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

### 第四節 學 費

第三十一條 入學ヲ許可セラレタル者ハ入學料トシテ金五圓ヲ納ムヘシ

第三十二條 授業料ハ一學年晝間部ハ金百八十圓夜間部ハ金百五十圓トシ左ノ三期ニ之ヲ納ムヘシ

	晝間部	夜間部
第一期	四月	金七十圓
第二期	九月	金六十圓
第三期	一月	金五十圓

第三十三條 學年ノ中途ニ入學シ又ハ退學スル者ハ特ニ入學前及ヒ退學後ノ授業料ヲ免除ス

休學中ハ授業料ヲ免除ス

第三十四條 在學中ハ闕席シタルトキト雖モ授業料ヲ免除セス

第三十五條 納付シタル授業料ハ返付セス

## 第三章 大 學 院

第三十六條 入學期ハ學年ノ始トス但シ時宜ニ因リ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ

第三十七條 大學卒業者ニシテ大学院ニ入ラント欲スルモノハ特ニ研究事項ヲ具シ其ノ許可ヲ受クヘシ

20134440



他ノ大學卒業者ニシテ大學院ニ入ラント欲スルモノハ前項ノ入學願書ニ學業履歷書ヲ添附シ當該學部ノ檢  
定ヲ受ケ合格スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ檢定料トシテ金十圓ヲ納ムヘシ

第三十八條 學長ハ學生ヲ指導スル教員ヲ選定スヘシ

第三十九條 學長ハ學生ノ爲メ特ニ講義ヲ開キ特別研究ヲ爲サシムルコトアルヘシ

學長ノ許可ヲ受ケ學生ハ各學部ノ講義演習等ニ出席スルコトヲ得

第四十條 學生ハ學年ノ終ニ於テ其ノ攻究ノ狀況及ヒ成績ヲ記載シタル報告書ヲ指導教員ヲ經テ學長ニ差出  
スヘシ

第四十一條 二年以上修學シタル者ハ其ノ攻究シタル學課ニ付卒業論文ヲ提出シテ學位ヲ請求スルコトヲ得

第四十二條 學生ハ攻究料トシテ學年ノ始又ハ入學ノ際ニ於テ一學年金百五十圓ヲ納ムヘシ

第四十三條 學長ハ學生中學力優秀心身健全ナル者ヲ銓衡シ特選給費學生ト爲スコトヲ得

特選給費學生ニハ二年以內月額金七百五十圓以內ノ學費ヲ給與ス但シ學長ニ於テ特ニ必要アリト認ムルトキ  
ハ年限ヲ延長スルコトヲ得

特選給費學生ハ學長ノ許可ヲ得スシテ他ノ業務ニ就クコトヲ得ス

學長ハ特選給費學生其ノ地位ニ適セサル事實アリト認ムルトキハ之ヲ免スルコトヲ得

特選給費學生ニハ第四十二條ノ規定ヲ適用セス

第四十四條 第十五條乃至第二十三條第三十三條第一項及ヒ第三十五條ノ規定ハ之ヲ大學院學生ニ準用ス

### 第四章 豫科

第四十五條 第一豫科ノ修學期間ヲ三學年トシ第二豫科ノ修學期間ヲ二學年トス

豫科ヲ卒業シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

#### 第一節 學科課程

第四十六條 豫科ノ學科課程、其ノ配當及ヒ授業時間數左ノ如シ

#### 第一 豫科

第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
科 目	科 目	科 目	科 目
修 身	修 身	修 身	修 身
國 語、漢 文	國 語、漢 文	國 語、漢 文	國 語、漢 文
第一外國語(英若)	第一外國語(英若)	第一外國語(英若)	第一外國語(英若)
第二外國語(英獨)	第二外國語(英獨)	第二外國語(英獨)	第二外國語(英獨)
時 間 數	時 間 數	時 間 數	時 間 數
一	一	一	一
六	五	五	五
五	五	五	二
史	史	史	史

學科課程  
現  
在  
多  
少  
更  
更  
施  
不

20134440

第二外國語ハ隨意科目トス

第二豫科

地	理	二	心理、論理	二	哲學概說	二
數	學	二	數學	一	心理、論理	二
自然科學	學	二	自然科學	二	法制、經濟	四
體操	操	二	體操	二	體操	二

第一學年	第二學年
科目	科目
修身	修身
國語、漢文	國語、漢文
第一外國語(英若、獨)	第一外國語(英若、獨)
第二外國語(英、獨、佛)	第二外國語(英、獨、佛)
歷史	歷史
心理、論理	哲學概說
時間授業	時間授業
一	一
五	五
一〇	一〇
(二)	(二)
五	二
二	二

第二外國語ハ隨意科目トス

第二節 入學、休學、退學及ヒ除名

第四十七條 入學ヲ許可スヘキ者左ノ如シ但シ外國人ニシテ之ニ相當スル學歷ヲ有スル者ハ中學校四學年終了程度ノ試験檢定ノ上之ヲ許可ス

第二豫科、第二豫科

- 一 中等學校四學年修了者
- 二 高等學校尋常科修了者
- 三 高等學校高等科入學資格試験合格者
- 四 專門學校入學者檢定規程ニ依ル試験檢定合格者
- 五 文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シ檢定シタル者
- 六 文部大臣ニ於テ專門學校入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者

數學	一	心理、論理	二
自然科學	二	法制、經濟	四
體操	二	體操	二

20134440

10

第四十八條 削除

第四十九條 入學期ハ學年ノ始トス但シ補缺トシテ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ

第五十條 第十二條乃至第二十三條ノ規定ハ之ヲ豫科學生ニ準用ス

### 第三節 試 驗

第五十一條 試驗ハ學年ノ終又ハ臨時之ヲ行フ

必要アルトキハ追試驗及ヒ再試驗ヲ行フ追試驗又ハ再試験ヲ受クル者ハ一科目ニ付受驗料金<sup>五十圓</sup>ヲ納ムベシ但シ總額金<sup>十圓</sup>ヲ超ユルコトナシ

第五十二條 試驗ノ成績ハ各科目ニ付優、良、可、不可ヲ以テ表示シ優、良、可ヲ合格トシ不可ヲ不合格トス

第五十三條 配當科目ノ全部ニ合格スルニ非サレハ進級スルコトヲ得ス

不合格ノ科目總科目ノ三分ノ一ニ達セサルトキハ教員會ノ銓衡ニ依リ前項ノ規定ニ拘ラス假ニ進級セシムルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ不合格ノ科目ニ付再試験ヲ受ケ合格スルコトヲ要ス引續キ二回進級セサル者ハ退學ヲ命スルコトアルヘシ

### 第四節 學 費

第五十四條 入學ヲ許可セラレタル者ハ入學料トシテ金<sup>五十圓</sup>ヲ納ム

第五十五條 授業料ハ一學年第一豫科ハ金<sup>五百圓</sup>第二豫科ハ金<sup>四百圓</sup>トシ左ノ三期ニ之ヲ納ムヘシ

	第一期	第二期	第三期
第一豫科	金 <sup>五百圓</sup>	金 <sup>五百圓</sup>	金 <sup>五百圓</sup>
第二豫科	金 <sup>五十圓</sup>	金 <sup>四十圓</sup>	金 <sup>三十圓</sup>

第五十六條 第三十條及ヒ第三十三條乃至第三十五條ノ規定ハ之ヲ豫科學生ニ適用ス

### 第五章 給費生及ヒ特待生

第五十七條 學長ハ大學及ヒ豫科學生中學術優等品行方正ナル者ヲ銓衡シ給費生又ハ特待生ト爲スコトヲ得

第五十八條 給費生ニハ當該學年間額金<sup>五百圓</sup>ノ學資ヲ給與シ特待生ニハ當該學年間授業料ヲ免除ス

第五十九條 給費生又ハ特待生ニシテ其ノ地位ニ適セサル事實アルトキハ直ニ之ヲ免ス

### 第六章 貸費生及ヒ留學生

第六十條 學長ハ大學及ヒ豫科學生中學術優等品行方正ニシテ學資支辨ノ途ナキモノヲ銓衡シ貸費生トシテ

當該學年間額金<sup>五百圓</sup>以内ヲ貸與スルコトヲ得

第六十一條 貸費ニ關シ寄附者アルトキハ其ノ寄附者ノ指定ニ從フ

20134440

第六十二條 貸費生クラントスル者ハ其ノ事情ヲ具シタル願書ヲ差出スヘシ  
第六十三條 貸費生タルノ許可ヲ得タル者ハ保證人二名ト連署シテ所定ノ證書ヲ差入ルヘシ  
第六十四條 貸費生ニシテ卒業シタル者ハ卒業後一個年目ヨリ毎月貸費ヲ受ケタル半額以上ヲ月賦ヲ以テ返納スヘシ

第六十五條 貸費生ニシテ其ノ地位ニ適セサル事實アルトキハ直ニ之ヲ免ス  
第六十六條 貸費生退學ヲ命セラレ、除名セラレ、貸費ヲ免セラレ又ハ退學シタルトキハ貸與金額ヲ即時ニ返納スヘシ但シ疾病ノ爲メ廢學シタル場合ニハ情狀ニ因リ月賦返納ヲ許スコトアルヘシ  
第六十七條 學長ハ卒業者中學力優秀ニシテ將來學術ノ蘊奧ヲ攻究セント欲スル者ヲ銓衡シ特ニ留學生トシテ學費ヲ貸與シ留學セシムルコトヲ得  
留學生ニ關スル事項ハ其ノ都度之ヲ定ム

## 第七章 學生心得

第六十八條 登校スルトキハ必ス制服制帽洋服若クハ袴ヲ着ケ靴又ハ上草履ヲ用フヘシ  
第六十九條 登校スルトキハ必ス學生證ヲ携帯スヘシ之ヲ携帯セサルトキハ退場ヲ命スルコトアルヘシ  
第七十條 教場ニ於テハ靜肅ヲ旨トシ雜談、喫煙其ノ他粗暴ノ舉動アルヘカラス  
第七十一條 授業中ハ退席スルコトヲ得ス、止ムヲ得サル事故アリテ退席セントスルトキハ教員ノ許可ヲ受

クヘシ

第七十二條 氏名ヲ改稱シ又ハ本籍住居等ヲ移轉シタルトキハ遲滞ナク届出ツヘシ  
第七十三條 三日以上闕席セントスルトキハ必ス其ノ事由ヲ具シ保證人ト連署シテ届出ツヘシ但シ七日以上闕席スルトキハ證明書ヲ添附スルコトヲ要ス  
第七十四條 闕席届出ノ日數ハ一個月ヲ超ユルヲ得ス若シ一個月ヲ超エ事由仍ホ止マサルトキハ其ノ都度必ス新ニ届出ヲ爲スコトヲ要ス

## 第八章 懲戒

第七十五條 學則又ハ校規ニ違反シ其ノ他不都合ノ行爲アル者ハ情狀ニ因リ停學又ハ退學ヲ命ス  
第一項ノ規定ニ依リテ退學ヲ命シタルトキハ其ノ旨ヲ同等學校ニ通知ス  
第七十六條 品行不良改悛ノ見込ナキ者ハ退學ヲ命ス  
第七十七條 前二條ノ規定ニ依リ停學又ハ退學ヲ命シタルトキハ其ノ旨ヲ父兄及ヒ保證人ニ通知ス

## 附則

一 本則ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
一 本則施行ノ際現ニ存スル第二學年及ヒ第三學年ノ學科課程、其ノ配當及ヒ授業時間數ハ其ノ第二學年ニ

屬スル學生ノ卒業スヘキ學年試験ヲ終ル迄仍ホ従前ノ規定ニ依ル

一 學部ノ第一學年又ハ第二學年ノ學生中昭和六年ニ施行シタル學年試験ニ於テ従前ノ規定第二十八條ニ依リ次ノ學年ノ試験ヲ受クルコトヲ得サルニ至リタル者ト雖モ本則施行後ニ於テハ次ノ學年ノ試験ヲ受クルコトヲ得但シ其ノ合格セサリシ科目ニ付テハ試験ヲ免除スルノ限ニ在ラス

一 本則改正ハ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

一 本則施行ノ際現ニ在スル各學部第二學年並法學部第三學年ノ學生ハ従前ノ規程ニ依ル

一 本則改正ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ適用ス但シ現ニ存スル第二學年及第三學年ノ學生、生徒ハ従前ノ規程ニ依ル

一 本則改正ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ適用ス但シ現ニ存スル第二學年及第三學年ノ學生生徒ハ従前ノ規程ニ依ル

一 本則改正ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ適用ス但シ現ニ存スル第二學年ノ學生生徒ハ従前ノ規程ニ依ル

一 本則改正ハ昭和十八年二月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本則改正施行ノ際現在スル學生生徒ノ授業料、攻究科ハ従前ノ規程ニ依ル豫科ヲ修了シ學部ニ入學スル者ニ付テハ改正額ニ依ル

一 本則改正ハ昭和二十年四月一日ヨリ施行ス但シ本則改正ノ際現ニ在學スル學生生徒ノ授業料ハ旧規程ニ依ル外尤記テ増徴シ之ヲ各期ニ納付セシム

年額

第一期 第二期 第三期

學部

晝間部金百六十円

五十五円

五十五円

五十円

夜間部金百三十円

四十五円

四十五円

四十円

豫科

第一期金百三十円

四十五円

四十五円

四十円

第二期金百二十円

四十五円

四十円

三十五円

大學子院 研究科 金六十五円

# 中央大學專門部學則

## 第一章 總 則

第一條 大學ニ專門部ヲ置ク專門部ハ法學、經濟學、政治學、商學ニ關スル學術ノ理論及ヒ應用ヲ教授スルヲ以テ目的トス

第二條 專門部ニ法學、經濟學、商學ノ三學科ヲ置キ學生ヲ正科生及ヒ別科生ノ二種ニ別ツ

第三條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第四條 休業日ハ左ノ通トス但シ必要アリト認ムルトキハ臨時休業スルコトアルヘシ

四月一日ヨリ十五日ニ至ル

七月十六日ヨリ九月十日ニ至ル

十二月二十六日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

日 曜 日

大 祭 祝 日

大學記念日(七月八日)

第五條 專門部ニ所定ノ期間在學シ且其ノ配當科目全部ノ試験ニ合格シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス



第二經濟學科

社會學	二	西洋法制史	二	國際私法	二
大東亞法制概論	二	歐羅巴法制概論	二	英米法制概論	二
外國語(支那語等)	二	外國語(支那語等)	二	外國語(支那語等)	二

科目	第一學年		第二學年		第三學年	
	時間數	每週授業	時間數	每週授業	時間數	每週授業
必修科目						
修身	一	修	一	修	一	修
經濟原論	二	經濟學史	二	經濟政策(工業)	二	
日本經濟史	二	經濟政策(農業)	二	經濟政策(交通)	二	
金融論	三	經濟政策(商業)	二	財政學	二	
統計學	二	經營經濟學	二	配給經濟學	二	
地政學	二	證券論	二	經濟統制論	二	
簿記原理	二	應用簿記(原價計算及工業簿記)	二	會計學	二	

第三商學科

科目	第一學年		第二學年		第三學年	
	時間數	每週授業	時間數	每週授業	時間數	每週授業
憲法	三	共榮圈情勢概論	二	政治學	二	
法學通論	二	民法(債權)	二	商法(海商・手形)	二	
民法(總則・物權)	四	商法(總則・會社商行為)	二	統制法規概論	二	
論理心理	二	哲學概論	二	外國語(英語)	四	
外國語(英語)	四	外國語(英語)	四	外國語(英語)	四	
軍事學	七	軍事學	四	軍事學	一	
兵器學	一	兵器學	一	兵器學	一	
隨意科目						
刑法	二	民法(親族法)	三	社會學	二	
外國語(支那語等)	二	行政法	二	保險學	二	
		外國語(支那語等)	二	商業數學(珠算ヲ含ム)	二	
		外國語(支那語等)	二	外國語(支那語等)	二	

必修科目中外國語ハ入學ノ始ニ於テ英語獨語ノ一ヲ選定シ屆出ルコトヲ要ス、夜間部ニハ教練ヲ課セズ





二 専門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定合格證書ヲ有スル者  
 三 文部大臣ニ於テ専門學校ノ入學ニ關シ中等學校四年修了者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト指定シタル者

別科生ハ志願者ノ履歷ニ就キ銓衡ノ上入學ヲ許可ス但シ國語、漢文、數學又ハ英語ノ全部又ハ一部ニ付キ試験ヲ行フコトアルヘシ

第九條 第二學年以上ニ入學スルニハ前條ノ資格ヲ有シ且第一學年又ハ第二學年ノ配當科目ノ試験ニ合格スルコトヲ要ス但シ受験料ハ金十圓トス

第十條 同等學校ニ於テ第二學年以上ニ在學シ轉學スル者ハ相當ノ學年ニ編入スルコトヲ得但シ學科課程中他校ニ於テ修了セサル科目アルトキハ其ノ科目ニ限り試験ヲ行フヘシ

第十一條 入學ノ許可ヲ請フ者ハ入學申込書ニ履歷書ヲ添ヘ差出スヘシ但シ試験ヲ要スル場合ニハ同時ニ受験料金五圓ヲ納ムヘシ

第十二條 正科生ノ入學期ハ學年ノ始トス但シ第十條、第二十條第二項又ハ第二十一條ノ規定ニ依リテ轉學又ハ再入學スル者ハ此ノ限ニ在ラス

別科生ノ入學期ハ學年ノ始トス但シ隨時入學ヲ許スコトアルヘシ  
 第十三條 入學ノ許可ヲ得タルトキハ直ニ保證人ト連署シテ在學證ヲ差出スヘシ

第十四條 保證人ハ成年者ニシテ東京都又ハ其ノ隣接市町村内ニ於テ獨立ノ生計ヲ立ツルモノナルコトヲ要ス

ス

保證人ハ本人在學中ニ係ル一切ノ事項ニ付其ノ責ニ任スヘキモノトス

第十五條 保證人死亡シ又ハ前條ノ要件ヲ缺キタルトキハ遲滯ナク之ヲ改定シ更ニ在學證ヲ差出スヘシ保證人ノ變更アリタルトキ亦同シ

保證人住所又ハ氏名ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ届出ツヘシ  
 第十六條 疾病其ノ他止ムヲ得サル事故ニ因リ滿二個月以上修學スルコト能ハサルトキハ其ノ事實ヲ證スル書面ヲ添附シ保證人連署ノ上其ノ許可ヲ受ケ當該學年間休學スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ休學シタル者休學ノ事由止ミタルトキハ保證人連署ノ上許可ヲ受ケ原級ニ入り修學スルコトヲ得

第十七條 給費生、貸費生ハ休學ノ月ヨリ其ノ資格ヲ失フ  
 第十八條 陸軍、海軍ノ現役ニ服スル者及ヒ召集中ノ者ハ其ノ期間第十六條ニ準シテ休學シ滿期後直ニ原級ニ復スルコトヲ得

第十九條 疾病其ノ他ノ事故ニ因リ退學セントスル者ハ保證人連署ノ上届出ツヘシ  
 第二十條 左ニ掲クル者ハ學籍ヨリ除名ス

- 一 學業劣等又ハ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ成業ノ見込ナシト認めタル者
- 二 出席常ナラサル者

三 何等ノ事由ヲ以テスルニ拘ラス引續キ一個年間闕席シ又ハ正當ノ事由ナク一個月以上闕席シタル者  
第二十一條ノ規定ハ前項ニ依リテ除名セラレタル者ニ之ヲ準用ス  
第二十一條 第六十五條又ハ第六十六條ノ規定ニ依リ退學處分ヲ受ケタル者四個月以上ヲ經過シ改悛ノ情顯  
著ナルモノト認メタルトキハ特ニ再入學ヲ許スコトアルヘシ

### 第三節 試 驗

第二十二條 試驗ハ學年ノ終又ハ授業ヲ終リタル際之ヲ行フ

必要アルトキハ追試驗及ヒ再試験ヲ行フ、追試験又ハ再試験ヲ受クル者ハ一科目ニ付受験料金<sup>五圓</sup>ヲ納ム  
ヘシ、但シ總額金<sup>十圓</sup>ヲ超ユルコトナシ

第二十三條 試験ノ方法ハ筆記又ハ口述トス

第二十四條 試験ノ成績ハ各科目ニ付甲、乙、丙ヲ以テ表示シ甲、乙ヲ合格トシ丙ヲ不合格トス

第二十五條 授業ヲ受ケタル科目ニアラサレハ試験ヲ受クルコトヲ得ス

休學シタル者ハ其ノ學年ニ屬スル試験ヲ受クルコトヲ得ス但シ第十八條ニ定メタル休學者ハ此ノ限ニ在ラ  
ス

第十六條第二項ニ該當スル者ハ其ノ休學取消ノ承認ヲ得テ試験ヲ受クルコトヲ得

第二十六條 或ル科目ニ付三箇年内ニ試験ニ合格セサル者ハ全部合格ニ至ル迄在學スルコトヲ得但シ六箇年

ヲ超ユルコトヲ得ス試験ヲ受ケシテ在學スル者亦同シ

在學六箇年ニ滿ツル者其ノ最後ノ學年試験ノ追試験又ハ再試験ヲ受ケントスルトキハ許可ヲ受ケ前項但書

ノ規定ニ拘ラス其ノ追試験又ハ再試験ノ施行ヲ終ル迄ノ期間在學スルコトヲ得

第十二條ノ規定ニ依リテ入學シタル者ニ付テハ其ノ入學シタル日ニ至ル迄ニ要スヘカリシ期間在學シタル

モノトシテ其ノ在學期間ヲ計算ス

第二十條又ハ第二十一條ノ規定ニ依リテ再入學シタル者ニ付テハ其ノ除名中又ハ退學中ニ屬スル期間ヲ其

ノ在學期間ニ通算ス但シ學年ノ始ニ於テ第一學年ニ入學シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 隨意科目ノ試験ハ希望アル場合ニ限り之ヲ行フ

學年ノ始ニ於テ許可ヲ受ケ隨意科目ヲ修學シタル者ニアラサレハ前項ノ試験ヲ受クルコトヲ得ス

第二十八條 試験ハ授業料ヲ完納シ且必要ナル受験料ヲ納付シタル者ニアラサレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

### 第四節 學 費

第二十九條 入學ヲ許可セラレタル者ハ入學料トシテ金<sup>五圓</sup>ヲ納ムヘシ

第三十條 授業料ハ一學年晝間部ハ金<sup>百五十圓</sup>、夜間部ハ金<sup>百十圓</sup>トシ左ノ三期ニ之ヲ納ムヘシ

晝間部  
夜間部

第一期 四月 金六十圓 金五十圓

20134440

第二期 九月

金五十圓

金四十圓

第三期 一月

金四十圓

金三十圓

第三十一條 學年ノ中途ニ入學シ又ハ退學スル者ハ特ニ入學前及ヒ退學後ノ授業料ヲ免除ス休學中ハ授業料ヲ免除ス

第三十二條 在學中ハ闕席シタルトキト雖モ授業料ヲ免除セス

第三十三條 削除

第三十四條 納付シタル授業料ハ返付セス

### 第五節 給費及生モ特待生

第三十五條 學長ハ學生中學術優等品行方正ナル者ヲ銓衡シ給費生又ハ特待生ト爲スコトヲ得

第三十六條 給費生ニハ當該學年額金五百圓ノ學資ヲ給與シ特待生ニハ當該學年額授業料ヲ免除ス

第三十七條 給費生又ハ特待生ニシテ其ノ地位ニ適セサル事實アルトキハ直ニ之ヲ免ス

### 第六節 貸費生及ヒ留學生

第三十八條 學長ハ學生中學術優秀品行方正ニシテ學資支辨ノ途ナキ者ヲ銓衡シ貸費生トシテ當該學年額年額金五百圓以内ヲ貸與スルコトヲ得

第三十九條 貸費ニ關シ寄附者アルトキハ其ノ寄附者ノ指定ニ從フ

第四十條 貸費生タラントスル者ハ其ノ事情ヲ具シタル願書ヲ差出スヘシ

第四十一條 貸費生タルノ許可ヲ得タル者ハ保證人二名ト連署シテ所定ノ證書ヲ差入ルヘシ

第四十二條 貸費生ニシテ卒業シタル者ハ卒業後一個年目ヨリ毎月貸費ヲ受ケタル半額以上ヲ月賦ヲ以テ返納スヘシ

第四十三條 貸費生ニシテ其ノ地位ニ適セサル事實アルトキハ直ニ之ヲ免ス

第四十四條 貸費生退學ヲ命セラレ、除名セラレ、貸費ヲ免セラレ又ハ退學シタルトキハ貸與金額ヲ即時ニ返納スヘシ但シ疾病ノ爲メ廢學シタル場合ニハ情狀ニ依リ月賦返納ヲ許スコトアルヘシ

第四十五條 學長ハ卒業中學力優秀ニシテ將來學術ノ蘊奧ヲ研究セント欲スル者ヲ銓衡シ特ニ留學生トシテ學資ヲ貸與シ留學セシムルコトヲ得

留學生ニ關スル事項ハ其ノ都度之ヲ定ム

## 第三章 研究科

第四十六條 研究科ハ專門部ノ卒業生ニシテ既修ノ學科ニ付尙ホ深遠ナル研究ヲ爲サント欲スル者ノ爲メニ之ヲ設ク

第四十七條 研究科ノ修業科目ハ左ノ十一科トシ各自志望ノ科目ヲ專攻セシム

憲法 行政法 刑法 民法 商法 訴訟法 國際法 政治學 經濟學  
財政學 商業學

三六

第四十八條 修業年限ハ一年以上三年トス

第四十九條 入學期ハ學年ノ始トス但シ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ

第五十條 研究科ハ専門部、舊英吉利法律學校、舊東京法學院又ハ舊東京法學院大學ノ卒業生ニシテ學長ノ承認ヲ經タル者ニ限り入學ヲ許ス但シ同等學校卒業生又ハ之ト同等以上ノ學歷アル者ニ入學ヲ許スコトアルヘシ

第五十一條 削除

第五十二條 第十一條及ヒ第十三條乃至第二十一條ノ規定ハ之ヲ研究科學生ニ準用ス

第五十三條 研究科ノ授業料ハ一個年百圓トシ左ノ三期ニ之ヲ納ムヘシ

第一期 四月 (金四十圓) ~~七十圓~~

第二期 九月 (金三十五圓) ~~七十圓~~

第三期 一月 (金二十五圓) ~~六十圓~~

第三十一條第三十二條及第三十四條ノ規定ハ之ヲ前項ノ授業料ニ準用ス

第五十四條 研究科學生ハ特ニ開ク講義ヲ聽聞スルノ外本大學ノ指定セル指導者ニ從ヒ專攻ノ學科ヲ研究スルモノトス

研究科學生ハ任意ニ一般學生ノ爲ニスル講義ヲ聽聞スルコトヲ得

第五十五條 研究科ノ卒業試験ハ論文試問トス但シ場合ニ依リ更ニ口述試問ヲ爲スコトアルヘシ  
卒業論文ハ二人以上ノ指導者之ヲ批判ス

落第者ハ更ニ六ヶ月以上修業ノ後再ヒ試験ニ應スルコトヲ得

第五十六條 研究科ノ卒業試験ニ應セントスル者ハ受験料金五十圓ヲ納ムヘシ

第二十八條ノ規定ハ前項ノ試験ニ之ヲ準用ス

第五十七條 研究科ノ卒業試験ニ合格シタル者ニハ卒業證書ヲ授與シ中央大學法律學士、中央大學經濟學士、中央大學商業學士ノ稱號ヲ認許ス

## 第四章 學生心得

第五十八條 登校スルトキハ必ス制服制帽、洋服若クハ袴ヲ着ケ靴又ハ上草履ヲ用ウヘシ

第五十九條 登校スルトキハ必ス學生證ヲ携帯スヘシ之ヲ携帯セサルトキハ退場ヲ命スルコトアルヘシ

第六十條 教場ニ於テハ靜肅ヲ旨トシ雜談、喫煙其ノ他粗暴ノ舉動アルヘカラス

第六十一條 授業中ハ退席スルコトヲ得ス止ムヲ得サル事故アリテ退席セントスルトキハ教員ノ許可ヲ受クヘシ

第六十二條 氏名ヲ改稱シ又ハ本籍住居等ヲ移轉シタルトキハ遲滞ナク届出ツヘシ

第六十三條 三日以上闕席セントスルトキハ必ス其ノ事由ヲ具シ保證人ト連署シテ届出ツヘシ但シ七日以上  
闕席スルトキハ證明書ヲ添附スルコトヲ要ス

第六十四條 闕席届出ノ日數ハ一個月ヲ超ユルヲ得ス若シ一個月ヲ超ユ事由尙ホ止マサルトキハ其ノ都度必  
ス新ニ届出ヲ爲スコトヲ要ス

## 第五章 懲戒

第六十五條 學則又ハ校規ニ違反シ其ノ他不都合ノ行爲アル者ハ情狀ニ因リ停學又ハ退學ヲ命ス

第一項ノ規定ニ依リテ退學ヲ命シタルトキハ其ノ旨ヲ同等學校ニ通知ス

第六十六條 品行不良改悛ノ見込ナキ者ハ退學ヲ命ス

第六十七條 前二條ノ規定ニ依リ停學又ハ退學ヲ命シタルトキハ其ノ旨ヲ父兄及ヒ保證人ニ通知ス

### 附則

一 本則ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

一 本則施行ノ際現ニ存スル第二學年及ヒ第三學年ノ學科課程及ヒ其ノ配當ハ其ノ第二學年ニ屬スル學生ノ  
卒業スヘキ學年試験ヲ終ル迄仍ホ從前ノ規定ニ依ル

一 第一學年又ハ第二學年ノ學生中昭和六年ニ施行シタル學年試験ニ於テ從前ノ規定第二十七條ニ依リ次ノ  
學年ノ試験ヲ受クルコトヲ得サルニ至リタル者ト雖モ本則施行後ニ於テハ次ノ學年ノ試験ヲ受クルコトヲ

得但シ其ノ合格セサリシ科目ニ付テハ試験ヲ免除スルノ限ニ在ラズ

一 本則改正ハ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

一 本則改正ノ際現ニ存スル各學科第二學年及第三學年ノ生徒ハ從前ノ規程ニ依ル

一 本則改正ハ昭和十一年十二月十日ヨリ之ヲ施行ス但シ第五十三條ハ昭和十一年十二月十日以降入學シタ  
ル者ニ又第五十七條ハ昭和十一年四月以降卒業シタル者ニ之ヲ適用ス

一 本則改正ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ適用ス但シ現ニ存スル第二學年及第三學年ノ生徒ハ從前ノ規程  
ニ依ル

一 本則改正ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ適用ス但シ現ニ存スル第二學年及第三學年ノ生徒ハ從前ノ規程  
ニ依ル

一 本則改正ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ適用ス但シ現ニ存スル第二學年及第三學年ノ生徒ハ從前ノ規程  
ニ依ル

一 本則改正ハ昭和十八年二月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本則改正施行ノ際現在スル生徒ノ授業料ハ從前ノ規  
程ニ依ル

附則

一本則改正ハ昭和二十年三月三日ヨリ適用ス但シ本則改正ノ際規ニ在學スル學生、生徒、授業料ハ旧規程ニ依ル外左記ノ年額増徴シテ之ヲ各期ニ分納付セシム

専門部

書問部	夜間部	年額
百三十四	百三十四	第一期
四十五円	四十五円	第二期
四十五円	四十四円	第三期
四十四円	三十五円	

研究科

金五十円
二十円
十五円
十五円

中央大学学則  
大学部大学予科専門部

20134440



昭和十九年八月

東京市神田區駿河臺三丁目九番地ノ四

中央大學

20134440

25